

令和4年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 京都市小川老人デイサービスセンター

1 施設の管理運営

- (1) 事業実施期間：2022年4月1日～2023年3月31日
- (2) 開所日及び開所時間帯：365日 午前8時30分～午後5時30分
- (3) 利用定員 30名
- (4) 事業実施地域：京都市上京区全域

(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容

2 事業実施内容

小川圏域に生活するすべての人が、認知症や疾病等により身体が不自由になっても、家族や地域とのつながりを保ちながら、地域の一員として誇りをもって自立した生活を送れるよう、指定管理調書に基づいた支援に取り組んでいる。

コロナ禍で多くのイベントや行事が中止となり、他者との交流が難しい状況が続いたが、京都市健康長寿推進課が行っている「オレンジロードプロジェクト」へ参加し、マリーゴールドの花の種まきから、毎日の水やりなど認知症普及啓発を行ってきた。ご利用者とオレンジの花を育てることで健康増進の取り組みを行った。また、感染対策を行いながら「あいうえお体操」の講師を招き、楽しく取り組むことができた。

これまで毎年業者に頼んでいた門松を利用者に製作してもらうなど、得意なことを活かしてもらう活動に取り組んだ。

(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容

(参考) 自主事業内容

3 サービス提供状況

管理者1名、生活相談員 3名、介護職員11名（兼職3名）、看護職員 2名、機能訓練指導員 1名

(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容

4 市内中小企業への発注に対する考え方

市内中小企業に委託する場合は、以下の考え方に従って業者選定を行っている。

委託への考え方

- (1) 業務内容が専門的な知識を必要とし、かつ施設内の職員では対応が困難な業務の場合。
- (2) 法人が専門的に行う業務ではないため、専門に行う業者のほうがより効率的に、かつ質の高いものを提供できると判断できる場合。
- (3) 業務内容は簡易であるが、行う人材を集める事が容易ではない場合、その業務を行える人材を集める事に特化した業者がある場合。また備品購入等の発注については、市内の業者を優先して活用していく。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 利用延べ人数（実績値）

7833 人

(2) 収支実績

ア 令和4年度収入状況（単位：円）

介護保険収入	84,866,839
利用料収入	8,443,715
委託料収入	17,325
補助金収入	879,203
寄付金収入	0
雑収入	89,431
その他	266,414
収入計	94,562,927

イ 令和4年度支出状況（単位：円）

人件費	58,980,531
事業費	10,472,449
委託費	2,723,519
小額修繕費	232,826
その他	2,897,540
支出計	75,306,865

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

・令和5年2月実施
・配布枚数 85枚 返答枚数 42枚 回収率 49.4%

(2) 利用者満足度把握の結果

	良い	普通	悪い	分からない	その他
・送迎全般について	37人	5人	0人	1人	0人
・入浴全般について	30人	9人	0人	3人	0人
・お食事について	28人	10人	0人	4人	0人
・レクについて	21人	12人	0人	10人	0人
・職員対応について	29人	10人	0人	3人	0人

項目ごとにフリースペース欄を設け、回答が多数あり。その回答に対して全て返答し、デイフロア内に掲示した。

(3) 意見等への主な対応状況

・ご意見については内容の確認を行い、関係職員に周知し対策の検討、実施を行っている。
・いただいた結果報告は施設内に掲示している。またご家族に送付している。

7 その他特記事項

(1)

--

(2)

--

8 評価（指定管理者自己評価）

- ・新型コロナの感染拡大により、14日間の休業を余儀なくされた（全て上期）。また、感染に起因する利用の中止が相次ぎ、上期は大きく稼働率が落ち込んだが、下期は稼働分析と対策を検討、実施することで前年度実績まで持ち直すことが出来た。
- ・事故再発防止の取組みとして、SHELL分析を導入。事故の原因を多角的に分析することで、2021年度のひやりはっと119件・事故件数19件から、ひやりはっと40件・事故件数14件と事故件数の減少につながった。
- ・障害者差別解消法に基づく不当な差別的取扱いの禁止及び合理的配慮の提供についても差別的な取扱いにならないように意思決定支援などの情報も得ながら取り組んだ。
- ・地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所を併設しており、域の高齢や福祉に関する課題について取組みをしやすい施設である。地域の自治会館、消防分団も併設しており、域の高齢者福祉の拠点として活動できるように引き続き取り組んでいきたい。